

1970年 大阪万博で開催された「人類の進歩と調和」高度成長期の日本は戦後から復興した国力の高さや、モノづくり技術の進化を世界に広めた。

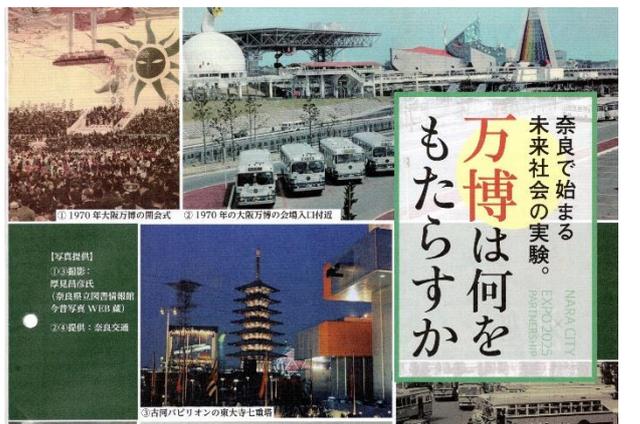
2005年愛知万博は今までの万博とは異なり「21世紀に世界が直面した環境問題」をテーマに取り上げ「地球規模の課題をどう解決していくかを考える場」に変化した。

2025年大阪万博では「いのち輝く未来をデザインする」をテーマとする。自然界に存在するさまざまないのちの共通性と相違性を認識し、他者への共感を育み、また多様な文化や考えを尊重しあうことによって、ともにこの世界を生きていく。私たち人類は、地球規模でのさまざまな課題に対して新たな価値観を生み出し、持続可能な未来を構築することができる「SDGs」へ。

受け継がれる万博の遺産(レガシー)

過去には「1度きりの希少性」が重視されたが、次第にSDGsの観点から「次の時代に受け継がれるもの」に着目されます。

1970年大阪万博で東大寺の「七重塔」(86m)が再現され天平人の叡智と技術に感服し、基壇部の展示ではキャッシュレスの実験が紹介され「奈良時代から昭和へと、人々の「夢」が繋がりました。



1970年大阪万博の開会式



古河パビリオンの東大寺七重塔塔は解体されたが相輪は東大寺に残された